

学校行事を通して学んでほしいこと

今年は、例年になく9月に入っても猛暑日が続き、9月も後半になってからようやく暑さも和らいできました。このような中でも生徒たちは、感染対策や熱中症対策を意識して換気にも気を配りながら、授業や部活動に励んでいます。

9月9日、16日、17日には、乙訓地方中学校新人体育大会が実施されました。2年生を中心とした新チームで挑む初めての公式戦です。どの部活動の大会会場でも熱戦が繰り広げられ、声を枯らして精一杯応援する姿や最後まで諦めない全力プレーが見られました。



さて、9月27日（水）から結団式を皮切りに体育祭の取組が始まりました。各色とも団長をはじめ集団演技リーダー、競技リーダーの紹介など取組に向けて士気を高めていました。

この体育祭の取組の特徴は、1年生、2年生、3年生の縦割りで色が編成されており、3年生が中心となり、1、2年生とともに取組期間中は、御神楽（みかぐら）や大縄跳びの練習を通して団結力を高めていくところにあります。

取組の過程では、なかなかみんなの気持ちが一つにまとめられなかったり、うまくいかないことが生じます。しかし、そういった一つ一つの課題の解決に向け、互いの気持ちを伝えようとコミュニケーションをとること、励まし合うこと、相手を思いやることが大切です。取組を通して助け合うことや協力することの意義を学んでほしいと思います。体育祭当日、みんなで力を出し切った後は、勝ち負けに関係なく、気持ちをひとつにして頑張ったこと、喜びや悔しさをみんなで共感できたこと、全員で協力して取り組んだことへの達成感や満足感が得られるはずで、ひとつのことに、みんなで気持ちをひとつにして取り組んだからこそ、信頼関係（仲間）が築かれ、絆が深まるのだと思います。

全校生徒のみなさん、来る10月11日（水）の体育祭に向け、気持ちをひとつにしてがんばりましょう。各色の団結力がどこまで高められるのかを楽しみにしています。

保護者の皆様、お忙しいとは存じますが、体育祭にご来校いただき、生徒の一生懸命に頑張る姿をみていただき、応援していただきますようよろしくお願いいたします。

校長 岡本 英明
学校だより（10月号）より